

「独立性に問わり問題」

日本学術会議 政府案を批判

日本学術会議の総会が17日開かれ、第三者の「選考諮問委員会（仮称）」を新設し、会員選考に調査させることの政府案について議論した。会員からは諮問委員会に意見が反映され、「これが審査に想像される」と批判や懸念が続出。「選考に介入する意図はない」「（選考過程）透明性確保が最低限必要だ」とする政府担当者

論した。会員からは諮問委員会に意見が反映され、「これが審査に想像される」と批判や懸念が続出。「選考に介入する意図はない」「（選考過程）透明性確保が最低限必要だ」とする政府担当者

と反論した。

政府は今国会に法改正案を提出する意向。学術会議側は政府の方針に対し、「明確な意思の表達」をする」と決め、18日の総会で具体的な内容をまとめた。

政府担当者は、学術会議は独立して活動しているが、国の組織である経費は全額国費でまかなわれていると指摘。「現行の組織形

は、2020年の菅義偉前首相による新会員候補6人の任命権を機に浮上したが、政府は理由を明かにしていない。会員からは「任命問題は全ての始まりで根幹だ。説明から逃げないで答えるべきだ」との意見が出た。

学術会議の見直しの議論は、2020年の菅義偉前首相による新会員候補6人の任命権を機に浮上したが、政府は理由を明かにしていない。会員からは「任命問題は全ての始まりで根幹だ。説明から逃げないで答えるべきだ」との意見が出た。

日本学術会議の梶田謙章会長は17日の総会で、会員選考に第三者の委員会を関わらせるなどと盛り込んだ政府の学術会議見直し案に対し、海外の自然科学系のノーベル賞受賞者61人から懸念を表明する共同声明を受け取ったと発表した。

梶田会長は「世界の傑出した多くの科学者がメッセージが寄せられた。（科学者組織の）独立性が重大な関心事である」と改め

て確認できた」と話した。

政府案を巡っては、2月に東京工業大の大隅良典栄賞教授など国内のノーベル賞受賞者ら8人が「学術の独立性（を損なう）といつた根拠的かつ重要な問題につながる」と危惧する声明を公表。梶田会長によると、今回の海外からの共同声明は「日本の8人が表明した懸念を共有し、全面的に支持する」としている。

梶田会長によると、「政治的な干渉から科学的助言を独立させる」とが重

要であることは共通認識だ」とした。



梶田謙章

日本学術会議の総会で発言する梶田謙章会長（中央）＝
17日、東京都港区